

平成29年度

市政世論調査概要

第 7 1 集

和 歌 山 市

はじめに

昨年は色々な政策が新たに動き出した年で、今までに蒔いた和歌山市の発展の基礎という種が次々と芽を出したと、実感できる年でした。

まず、平成38年度までのまちづくりの方向性を示す「第5次和歌山市長期総合計画」を策定し、和歌山市が目指すべき将来都市像を「きらり 輝く 元気な和歌山市」と定め、それを実現するための4つの分野別目標「安定した雇用を生み出す産業が元気なまち」「住みたいと選ばれる魅力があふれるまち」「子供たちがいきいきと育つまち」「誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち」を示しました。次に昨春には、第二阪和国道と京奈和自動車道紀北西道路が開通しました。このことにより、近畿圏内をはじめ中部、関東方面へのアクセスが向上し、経済圏の拡大が期待できます。そして4月に、県下で初めて9年制の伏虎義務教育学校が開校し、教育にとって大きな試みがスタートしました。さらに、「絶景の宝庫 和歌の浦」が日本遺産に認定されたことで、和歌山市の今後の観光にとって新たな魅力が創出され、大勢の観光客を呼び込むチャンスが到来しました。

今年は、和歌山城天守閣が再建60周年を迎える記念すべき年でもあり、長年市民から愛されている和歌山城と「絶景の宝庫 和歌の浦」の魅力を効果的にPRすることで、国内外からの誘客につながるよう、和歌山市の魅力を積極的に発信していきます。また、今春には、まちなかに誘致した3つの大学の中で、1校目となる東京医療保健大学和歌山看護学部が開学します。さらに、来年の4月には（仮称）和歌山信愛大学教育学部、平成33年4月には公立大学法人和歌山県立医科大学薬学部の開学を予定しています。これにより年々まちなかに集まる若い年代が増え、地域の方との交流が生まれ、行事やイベントで地域の方々と協働することによって、若者が和歌山市に愛着を持ち、まちなかに定着することが期待できます。

そして、産業振興や子育て支援はもちろんのこと、誰もが住みたくなる魅力的なまちづくりに取り組むことで急激な人口減少に歯止めをかけ、コンパクトシティの形成や高齢化対策等にも対応した安心して住み続けられるまちの実現に向けて、市民の皆様と力を合わせて全力で取り組んでいきます。

この冊子は、アンケート調査で得られた貴重なご意見を市政に最大限活用し、今後の施策や計画に反映することを目的とした貴重な資料であります。

ここに、平成29年度市政世論調査概要（第71集）を取りまとめましたので、関係各位におかれましては、ご活用いただければ幸いと存じます。

終わりに、この調査を実施するにあたり、ご協力いただきました市民のみなさまに厚くお礼申し上げます。

平成30年3月

和歌山市長 尾花 正 啓



和歌山市き章（明治 42 年制定）

和歌山市は三方山に囲まれ、西は紀伊水道をへだてて、淡路島、四国が見える風光明媚な温暖の地である。

その和歌山市の力強い発展をき章が表している。

すなわち、山の形の印は、和歌山市は三方山に囲まれているので、その地形を表し、白い矢印は和歌山市発展の勢いを表す（三方の山を貫く市民の力）。

○ はワカ山のカ（カタカナ文字）を図案化したもの。

和 は和カヤマの和を表している。

市民憲章（昭和 41 年 11 月 3 日制定）

わたくしたちは、和歌山市民であることに誇りをもち、平和で豊かなまちをつくるため、市民の心がまえを定めます。

- ① 自然を愛し、きれいなまちをつくりましょう。
- ② 互いにたすけあい、希望にみちたまちをつくりましょう。
- ③ きめごとを守り、人に迷惑をかけない市民になりましょう。
- ④ 仕事に誇りをもち、たくましい市民になりましょう。
- ⑤ 教養を高め、視野の広い市民になりましょう。

目次

I. 調査の概要	5
1. 調査の目的	5
2. 調査の内容	5
3. 調査の方法	5
4. 集計区分	6
5. 回答者の属性	7
6. 回答者の家族環境	11
II. 調査の結果	15
1. 市政一般について	15
2. 人口減少・人口流出について	16
3. 日本遺産について	24
4. LRT（次世代型路面電車）について	32
5. 食育について	41
6. 災害対策について	51
7. 防犯対策について	67
8. スポーツについて	72
9. フルマラソンについて	76
10. スポーツ施設について	81
11. 健康について	83
12. ウイルス性肝炎対策について	108
13. 和歌山市の取組に対しての満足度・重要度について	116
14. 和歌山市の市政について（自由意見）	141
III. 調査票	145

※報告書利用にあたって

○図および表中の比率は、小数点第2位を四捨五入して表示しています。したがって、内訳を合計しても100%に合致しない場合があります。

○複数の回答を依頼した質問では、比率の合計が100%を超えています。

○図中の「n」とは、質問別の該当対象者数を示し、比率は「n」を100%として表示しています。「n」が調査母数の場合は表示していません。今年度は「1027」となっています。

○年齢層別クロス集計について、18～19歳は回答数が少ないため、本調査の結果が和歌山市における当該年齢層の傾向と異なる可能性があることをご理解の上、調査結果をご覧ください。